

武蔵野市水環境連続講座「水の学校」2016 とは？

「水の学校」は、市民のみならずといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、3年目を迎えました。

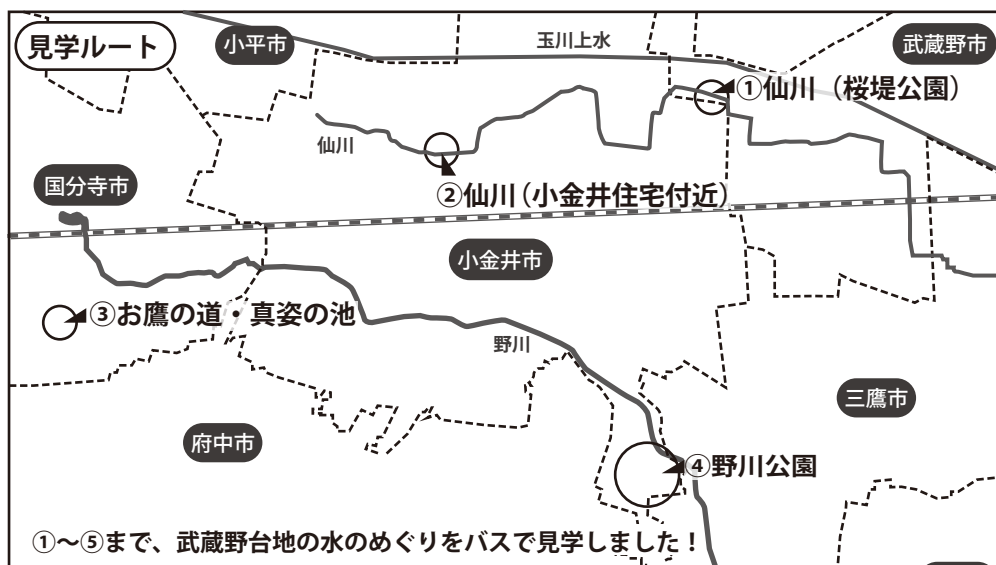
連続講座レポート

第4回 「流域」で考える、雨とまちの関係 ～野川の取り組みと武蔵野台地の水循環

暑さが和らぎ秋らしい気温になり始めた 10/1（都民の日でした！）、平成 28 年度では初めての終日の講座として、武蔵野台地の水辺見学から、自然の中での水の循環を学ぶツアーを行いました。

まず市内の桜堤公園に向かい、「仙川リメイク」として自然護岸の親水整備を行った仙川上流部を見学した後、バスで移動し国分寺湧水群のあるお鷹の道とその周辺の湧水群を見学しました。次に、調布市の野川公園の湧水広場と公園内の野川沿いを散策したあとに自然観察園内を見学しました。さらに深大寺へ移動し、水の湧く様子やその湧水がつくる池の様子を観察しました。

最後に市役所へ戻って、めぐった場所の特徴や雨の行方を考えるワークショップを行いました。当日は運良く雨には降られませんでした。前日まで続いた連日の雨によりいずれの場所も水量が豊かで、雨が降って地中にしみこんだあと、より低い場所で湧水となり、川や池をつくっていく「水の循環」をより一層感じることができました。



①～⑤まで、武蔵野台地の水のめぐりをバスで見学しました！



東京の名湧水！国分寺湧水群

今回訪れた「お鷹の道」は、江戸時代に国分寺市内の村が徳川家のお鷹場として指定されていたことが名前の由来となっています。現在は崖線下から湧き出る湧水が集まって流れる清流沿いの小道を、遊歩道として整備しており散策路として人気があります。お鷹の道と合わせて「真姿の池」を中心とした湧水群は、その環境の良さが評価され環境庁の「全国名水百選」としても選ばれています。講座当日は、雨の降る日が続いている中での日程だったため、とても水量が多く「予想以上に湧水が出ていて驚かされた」「東京でもこんなにしっかり湧水が見られるなんて思わなかった」など受講生からは驚きの声が聞かれました。

受講生の声より

- 湧水という視点を持って見ると、今まで見えなかった世界を見ることができた。
- 湧水のあるところに人々の生活があり、川の流れに人の社会が始まるのだと思う。水は大切。
- 水辺のある地域（野川流域など）に住んでいる市民は水に対する意識が高く、それをきっかけにコミュニティやまちづくりが進んでいるように感じた。武蔵野市には残念ながら豊かな水辺はないが、今日のような講座によって水のことを考えるきっかけになるといい。
- 湧水地をめぐり、雨水との関係を考えるよい機会でした。住宅地のみではなく道路の雨水対策も進めることが重要だと思います。



お鷹の道・真姿の池

深大寺の「深沙大王」、モデルは…?!

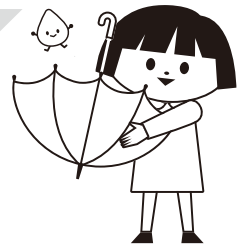
お蕎麦で有名な深大寺ですが、実は深大寺に祀られている深沙大王もとても有名であることを知っていますか？深大寺の名前の由来にもなっている水神の深沙大王は、皆さんご存知の『西遊記』に登場する河童の妖怪、沙悟浄がモデルといわれているのです。

深大寺を訪れた方は皆さん本堂に行かれますが、本堂の中心から西に約120mほど離れたところに深沙堂と呼ばれるお堂があり、そこにこの深沙大王が祀られています。また、お堂の裏手にはこの土地の水源であり、深大寺の発祥にかかわる泉があります。講座当日も、現在の参道や本堂は参拝される方や観光客で賑っていましたが、「水の学校」では深沙堂裏の水が湧き出る様子を見学しました。



水コラム no.18: 水の循環のためにできること！

今、私たちの身近にある武蔵野台地の湧水や川は、過去に雨として降った水が地中にしみこみ、はけ（崖線）から地上に出てきているものです。しかし、現在では多くのまちが市街化しコンクリートで覆われ、降った雨が地中にしみ込まずに道路や雨どいから下水道管に流れ込み、その後、川や海に放流されてしまっています。未来の世代へ豊かな水をつなぐために、どんなことができるでしょうか？市の取り組みをご紹介します。

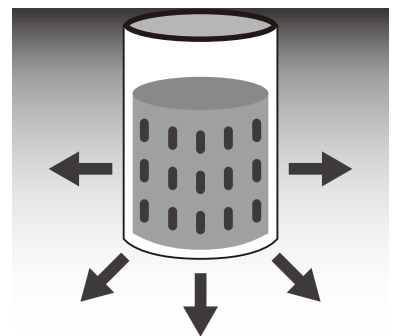


ご存知ですか？「雨水浸透ます」

健全な水循環を将来にわたって維持するため、武蔵野市では、平成24年10月1日に「雨水利用条例（武蔵野市雨水の地下への浸透及び有効利用に関する条例）」を施行し、地下水のかん養や良好な水循環を目指す取り組みを積極的に行っています。

学校の校庭などの公共用地には雨をしみこませるため大型の施設を整備していますが、それだけでは決して十分ではなく、市内の大部分を占める民有地で雨を地中にしみこませることが非常に重要となっています。

そのため、市では「雨水浸透ます」の設置に対して助成金を交付しており、以前より建っていた住宅に関しては原則自己負担なしで設置いただけることとしています。より多くの雨を地中に返すことで、未来の世代の市民に豊かな水を引き継ぐことができるのです。皆さんも一緒に未来の水循環について考えてみませんか？



サポーター活動報告

9/17（土） 善福寺～有栖川宮記念公園、都心の湧水めぐり

麻布十番の古刹「善福寺」の門前に湧く清泉、カフェの店内にある地下水井戸、南麻布に広がる「有栖川宮記念公園」など都心の湧水スポットを巡りました。帰りは恵比寿へ足をのぼし、ビールで乾杯して喉の渴きを潤しました！

10/6（木）サポーターミーティング

市役所会議室に集まり、夏のサポーター企画の振り返り、近況報告、今年度後半の活動内容の相談をしました。

10/15（土）江戸の情緒が漂う水辺の下町散歩

浅草橋から両国を散策。両国からは水上バスで浅草・二天門へ。向島を歩いて、雨水市民の会事務局や「路地尊（ろじそん）」などの雨水貯留・活用施設を見学しました。しめくくりは浅草の老舗「神谷バー」で電気ブランを楽しみました！